

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 3 年度実績の検証及び令和 4 年度実行計画の策定について

| 教育ビジョン | | 令和 3 年度実行計画 検証 | |
|--|--|---|-------------|
| 目標 1 | | 成果等 | 課題 / 今後の取組等 |
| <p>専門分野を基盤とする知、広く世界と未来を俯瞰する視野や感性、そして社会のニーズに応えるスキルとデザイン力をもって、自ら主体的に考え、行動することにより新たな価値を創造し、持続可能で多様性に富んだ知識集約型社会を牽引する人材を育成する。</p> | | | |
| <p>【地域の総合大学として、その特性を活かした質の高い大学教育を提供する】 幅広い学問領域をもつ地域の総合大学として、その知的資源を最大限活用した多様で質の高い教育を保証すると共に、各学部・研究科の「ここにしかない学び」(独自性のある教育プログラム)を提供する。</p> | | <p>III</p> <p>教学マネジメント委員会を設置し、「島根大学教育マネジメント方針」及び「島根大学アセスメントプラン」を策定した。 「島根大学アセスメントプラン」に基づく「自己点検・評価実施要領(令和 3 年度実施用)」を定め、全学、学部・研究科レベル及び全学共通教育における自己点検・評価を実施した。</p> | |
| <p>戦略 1 全学的な教学マネジメント体制を整備して、組織的で質の高い教育課程を全学、各学部・研究科、個別授業の各レベルで点検・改善しながら展開する。</p> | | | |
| 令和 3 年度実行計画 | | 令和 4 年度実行計画【第 4 期中期計画を実行する計画】 | |
| <p>①教学マネジメント会議を設置し、本学の教学マネジメント体制を確立し、全学レベルにおける点検・改善を開始する。</p> | | <p>①令和 4 年度に受審する認証評価への対応を通じて、各学部(学科)・研究科における教育課程上の課題を改善する。※ ②教学マネジメント委員会において、全学及び各学位課程の教育改善過程に学生を参加させる仕組(仮称:学生教育委員会)について検討を開始するとともに、ロードマップを策定する。【⑥-1-②】</p> | |

※第 3 期中期目標期間(4 年目終了時)の法人評価結果を踏まえている項目

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 3 年度実績の検証及び令和 4 年度実行計画の策定について

| 教育ビジョン | | 令和 3 年度実行計画 検証 | |
|---|--|--|--|
| 専門分野を基盤とする知、広く世界と未来を俯瞰する視野や感性、そして社会のニーズに応えるスキルとデザイン力をもって、自ら主体的に考え、行動することにより新たな価値を創造し、持続可能で多様性に富んだ知識集約型社会を牽引する人材を育成する。 | | 自己評価 | 成果等 |
| 目標 1 | 【地域の総合大学として、その特性を活かした質の高い大学教育を提供する】 幅広い学問領域をもつ地域の総合大学として、その知的資源を最大限活用した多様で質の高い教育を保証すると共に、各学部・研究科の「ここにしかない学び」(独自性のある教育プログラム)を提供する。 | III | 学生ポートフォリオを作成し、学修成果を可視化し、学生、教員にフィードバックするとともに、新型コロナウイルス拡大前後のデータを比較できるように教員ポートフォリオを改善し、全教員にフィードバックすることで、学生の主体的学修や教員の指導力改善を支援した。 自学習時間を把握する学生アンケート、授業改善や教育全般に対する満足度を把握する卒業時アンケートを実施した。 |
| 戦略 2 | 教学 IR の推進により教育・学修成果の可視化を進め、IR データの分析結果を活用することによって学生の主体的学修や教員の指導力改善を支援する。 | II | |
| 令和 3 年度実行計画 | | 令和 4 年度実行計画【第 4 期中期計画を実行する計画】 | |
| ①大学教育センターは、学務情報システム他教学 IR を活用し、学生ポートフォリオを作成することにより学修成果の可視化を実施し、学生、教員にフィードバックする。 | ②大学教育センターは、教員ポートフォリオの改善を図り、教員にフィードバックする。 | ③大学教育センターは、昨年実施された全国学生調査(第一回試行)の結果を分析し、本学の教育における課題を学生視点から分析する。 | ④大学教育センターは、学生アンケートを実施し、自学習時間(予習、復習)の経年変化を把握し、本学の状況を全国の大学及び国際比較に基づき分析する。 |
| ⑤大学教育センターは、学生アンケートを実施し、授業改善や教育全般に対する満足度を把握する。 | ⑥大学教育センターは、教員アンケートにより、教員ポートフォリオの教員サイドからの意見を参考に改善を図る。 | ①学生ポートフォリオは、本学の学務情報システム上は「DP 達成状況チャート」に相当するものであり、これをベースとして学修成果を可視化する仕組みを構築する。そのために、 ・学生の主体的学びの軌跡や成果を表現するために追加すべき情報は何か ・各学部の「ここにしかない学び」の成果を可視化するためにどうすればよいか について検討を行い、追加すべき教育・学修成果の指標や項目のリストを作成する。【下線部分⑥-1-①】 | ②現行の「DP 達成状況チャート」の目的、仕組み(DP 達成状況がどのように可視化されているのか、その点検評価と改訂がなぜ重要なのか等)、活用方法や学生教育上の必要性などをわかりやすく解説した活用マニュアルを作成し、これを使った FD 研修を実施する。学務情報システム「DP 達成状況チャート」を用いた学生指導を行っている教員が令和 5 年度末には半数以上になることを目標とする。 |
| | | ③教学 IR の取組みとして、教育・学修成果についての次の指標・項目リスト(例)が毎年度自動的に更新され可視化される仕組みを構築する。 (学年終了時 GPA、副専攻プログラム履修状況、副専攻プログラム履修完了者数、自学習時間、満足度等授業評価結果、DP 達成状況チャートを活用した学生指導実施状況、教員の教育力、TOEIC-IP 得点、ギャップターム活動状況、学年インターンシップ参加学生数、短期留学経験者数、長期留学経験者数、外国人学生の在籍数、休学者数、退学者数、学生教員比率、就職率、進学率) | ④令和 3 年度実行計画②⑥に基づき、教学マネジメント委員会(教育改善小委員会)において、教員の教育力向上プログラム(令和 4~5 年度の 2 年計画)を策定する。 |

自己評価 【目標 1~V】 V.目標を上回る成果が得られている IV.目標を達成している III.目標達成に向けて順調に進んでいる II.目標達成のためには遅れている I.目標達成のためには重大な改善事項がある
【戦略 1~IV】 IV.計画以上の進捗状況にある III.順調に進んでいる II.遅れている I.重大な改善事項がある

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 3 年度実績の検証及び令和 4 年度実行計画の策定について

| 教育ビジョン | | 令和 3 年度実行計画 検証 | |
|---|------|--|--|
| 専門分野を基盤とする知、広く世界と未来を俯瞰する視野や感性、そして社会のニーズに応えるスキルとデザイン力をもって、自ら主体的に考え、行動することにより新たな価値を創造し、持続可能で多様性に富んだ知識集約型社会を牽引する人材を育成する。 | | | |
| 目標 1 | 自己評価 | 成果等 | 課題 / 今後の取組等 |
| <p>【地域の総合大学として、その特性を活かした質の高い大学教育を提供する】</p> <p>幅広い学問領域をもつ地域の総合大学として、その知的資源を最大限活用した多様で質の高い教育を保証すると共に、各学部・研究科の「ここにしかない学び」(独自性のある教育プログラム)を提供する。</p> | III | <p>授業科目と SDGs との関連付けを明確化させるために、令和 4 年度シラバスから、各授業科目が SDGs のどの目標に関係するかを、シラバスのキーワード欄に記載することで、SDGs を反映させた授業科目の割合は全体の 20.8% となった。</p> <p>令和 3 年度実行計画③の研修会を計 6 回実施するとともに、実行計画④の SDGs 意識調査を実施し、質問項目「SDGs の関心度」で「あまり関心がない」「関心がない」「わからない」を選択した学生は 4,780 名(無回答者も含む)であった。</p> | <p>SDGs の観点からの授業内容の見直しを本格的に進めるためには、SDGs を教育にどのように取り入れていくかについて大学としての方針を定め、3 ポリシーを見直す必要がある。</p> <p>SDGs 意識調査の最終回収率は学生、全体とも 40% に満たなかった。回収率向上への対策に取り組む。また、質問項目「SDGs の関心度」で「あまり関心がない」「関心がない」「わからない」を選択した学生が、今後の調査において、「関心がある」「とても関心がある」を選択することで意識の向上があったことを確認する。</p> |
| <p>戦略 3</p> <p>SDGs の観点からカリキュラムを見直すと共に、授業科目と SDGs との関連付けを明確化しシラバスに記載するなど、授業内容の SDGs への関連について学生の理解を深めると共に、SDGs に対する意識を向上させる。</p> | II | | |
| 令和 3 年度実行計画 | | 令和 4 年度実行計画【第 4 期中期計画を実行する計画】 | |
| <p>①学部・研究科において、SDGs の観点から 3 ポリシーを見直し、必要な修正を行う。</p> <p>②大学教育センターと学部・研究科は、SDGs の観点から授業内容を順次見直し、次年度以降の授業に反映するよう準備を進めると共に、授業内容と SDGs の関連がわかるようシラバスの記載内容を見直し、令和 4 年度のシラバスに反映させる。</p> <p>③SDGs への意識醸成のための教職員や学生対象の研修会を実施する。</p> <p>④SDGs に関する学生意識調査を実施する。</p> | | <p>①各学部・研究科の強みや特色を反映した新たな教育目標、DP・CP・AP(令和 6 年度入学者から適用、教育ビジョン-目標 1-戦略 5-実行計画①)を策定する際、SDGs の観点をどのように反映させるかについて、教学マネジメント委員会で協議し、その結果を共通のフォーマットに取りまとめる。【⑤-1-①②、⑥-1-①】</p> <p>②令和 5 年度より実施する新たな全学共通科目において SDGs 関連科目の充実を図るとともに、専門教育との接続も図りつつ SDGs に関する体系的学修を促進するため(教育ビジョン-目標 1-戦略 4-実行計画④)、全学共通教育小委員会に検討チームを設け具体的な計画(授業内容や学年配置等)を策定する。当該計画の中には次の 2 つの検討を含む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学共通教育及び専門教育を SDGs の観点から分類・体系化した「全授業 SDGs マップ(仮題)」を作成し、令和 5 年度中にはホームページで公表できるようにすること。 ・SDGs やカーボンニュートラルをテーマとした新たな副専攻プログラムの開講可能性を検討すること。 <p>【⑥-2-①、独自-1-①②】</p> | |

- | | |
|--|---|
| | <p>③S-SPRING（大学院博士後期課程）において、「Sustainability science and SDGs」 「Science for a sustainable society and future Earth」（英語科目）を開講、これを同育成生以外にも聴講可能となるように展開する。また博士前期・修士課程科目（日本語）「持続性科学とSDGs」を開講する。これらにより大学院生のSDGsに対する意識を向上させる。【独自-1-①】</p> <p>④学内におけるSDGに対する意識を向上させるため、SDGsに関する学生・教職員意識調査を実施し、無回答者を昨年度より10%減少させる（令和3年度無回答者：学生60.3%、教職員71.5%）。</p> |
|--|---|

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 3 年度実績の検証及び令和 4 年度実行計画の策定について

| 教育ビジョン | | 令和 3 年度実行計画 検証 | |
|--|------|---|--|
| 専門分野を基盤とする知、広く世界と未来を俯瞰する視野や感性、そして社会のニーズに応えるスキルとデザイン力をもって、自ら主体的に考え、行動することにより新たな価値を創造し、持続可能で多様性に富んだ知識集約型社会を牽引する人材を育成する。 | | | |
| 目標 1 | 自己評価 | 成果等 | 課題 / 今後の取組等 |
| <p>【地域の総合大学として、その特性を活かした質の高い大学教育を提供する】</p> <p>幅広い学問領域をもつ地域の総合大学として、その知的資源を最大限活用した多様で質の高い教育を保証すると共に、各学部・研究科の「ここにしかない学び」(独自性のある教育プログラム)を提供する。</p> | III | <p>文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度 (リテラシーレベル)」に認定された。また、全学共通教育科目の基礎科目において「数理・データサイエンスへの誘い」を必修化 (履修者数 1,093 名) するとともに、特別副専攻プログラム (履修者数 基礎プログラム 289 名、専門プログラム 214 名) を開講した。</p> <p>島大支援基金による「学生ベンチャースタートアップ支援奨励金」制度によるスタートアップ支援を行った (応募 3 件、2 件採択)。</p> | <p>STEAM 教育も含め、全学としての共通教育改革の方向性を決定する必要がある。</p> <p>令和 3 年度から教養育成科目「アントレプレナーシップ入門セミナー」を開講し、アントレプレナーシップ養成を進めたものの、引き続き、教育の体系化、実施体制の整備が必要である。</p> |
| <p>戦略 4</p> <p>全学共通教育において、幅広い学問領域をもつ総合大学としての特質を活かした学際的・国際的な教育内容を充実させ、学生の知的好奇心・社会的行動力の活性化を図ると共に、数理・データサイエンス、批判的思考力、デザイン力、アントレプレナーシップなど現代社会の求める新たなリテラシーを全学生が身につけられるよう全学的に STEAM 教育を推進する。</p> | II | | |
| 令和 3 年度実行計画 | | 令和 4 年度実行計画【第 4 期中期計画を実行する計画】 | |
| <p>① 教学マネジメント会議と大学教育センターが中心になり、高等教育の現代的課題を踏まえた共通教育改革の検討を行い、その方向性を策定する。</p> <p>② 更なる共通教育改革として、共通教育における授業内容を批判的・論理的思考力の養成に資するよう変革する。(令和 4 年度試行的実施、令和 5 年度共通教養授業の 10% の科目で実施。)</p> <p>③ 全学及び各学部・研究科における STEAM 教育の基本方針を策定し、基本方針に沿ってカリキュラムを改正する</p> <p>④ 数理・データサイエンス・AI 教育を全学必修化する。</p> | | <p>令和 5 年度より新たな全学共通教育をスタートさせるため、①～④により、その準備を完成させる。</p> <p>① 新たな全学共通教育の基盤となる「島大 STEAM (仮称)」の枠組について、数理・データサイエンス、批判的思考力、デザイン力、アントレプレナーシップなどを取り入れて構築する。【⑥-2-①】</p> <p>② 「島大 STEAM (仮称)」の構築にあたっては、令和 3 年度に策定された「島根県版高等教育のグランドデザイン」を踏まえ、島根大学における STEAM 教育を定義する。(地域・社会連携ビジョン-目標 1-戦略 1 と関連) 【①-2-①】</p> <p>③ 「島大 STEAM (仮称)」は、全学共通教育における STEAM 教育の流れが各学部の専門教育における STEAM 関連科目に有機的に接続することに加え、現在、国において推進を図っている高校段階までの STEAM 教育とも接続するように構築</p> | |

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 3 年度実績の検証及び令和 4 年度実行計画の策定について

| | |
|--|---|
| <p>⑤数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）の認定を受ける。</p> <p>⑥数理・データサイエンスの特別副専攻プログラム（基礎、応用）を開講する。</p> <p>⑦現在開講しているアントレプレナー教育を引き続き実施すると共に、デザイン力養成を含めた体系的なアントレプレナーシップ教育を構築し、その実施体制を整備する。</p> <p>⑧島大支援基金や民間からの助言等、学生によるスタートアップを支援する。</p> | <p>する。</p> <p>④新たな全学共通科目の教育内容として、STEAM 教育以外にも学際的・国際的な内容、SDGs 関連科目の充実を図り、学生の知的好奇心・探究心を活性化させ、現代社会や地域社会の未来を切り開く知のリーダー的役割を担うに相応しい新たなリテラシーを身に付けられるよう設計する。【⑥-2-①、独自-1-①②】</p> <p>⑤新たな全学共通教育の構築にあたっては、思考法の転換（批判的思考・論理的思考、水平的思考の柔軟な活用）を促す学び、プロジェクト型学修や産業界との協働による社会実装的な学び、高度な教育 DX を活用した学修効果の高まる学び、遠隔教育の活用による国内外の大学等との交流教育など、知的好奇心や探究心が社会的行動力の活性化につながるような教育方法を計画的に取り入れる。【⑥-2-②】</p> <p>⑥島大支援基金より「学生ベンチャースタートアップ支援奨励金」として学生によるスタートアップを支援する。</p> |
|--|---|

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 3 年度実績の検証及び令和 4 年度実行計画の策定について

| 教育ビジョン | | 令和 3 年度実行計画 検証 | |
|--|------|--|-------------|
| 専門分野を基盤とする知、広く世界と未来を俯瞰する視野や感性、そして社会のニーズに応えるスキルとデザイン力をもって、自ら主体的に考え、行動することにより新たな価値を創造し、持続可能で多様性に富んだ知識集約型社会を牽引する人材を育成する。 | | | |
| 目標 1 | 自己評価 | 成果等 | 課題 / 今後の取組等 |
| <p>【地域の総合大学として、その特性を活かした質の高い大学教育を提供する】</p> <p>幅広い学問領域をもつ地域の総合大学として、その知的資源を最大限活用した多様で質の高い教育を保証すると共に、各学部・研究科の「ここにしかない学び」(独自性のある教育プログラム)を提供する。</p> | III | <p>各学部・研究科において、特色や強みを活かした「ここにしかない学び」(独自性のある教育プログラム)の構築に向けて検討を進めた。</p> <p>出張講義や入試説明会に加えて、コロナ禍における広報として、オープンキャンパス用の各学部・学科のビデオ作成(視聴回数12,670回)や、オンラインガイダンスを開催し、各学部の特色や強みを高校生に広報した。</p> | |
| <p>戦略 5</p> <p>各学部・研究科において、それぞれの特色や強みを見える化すると共に、意欲ある学生を惹き付ける「ここにしかない学び」(独自性のある教育プログラム)を構築し、学生の知的探究心・社会的実践力の向上を図る。</p> | III | | |
| 令和 3 年度実行計画 | | 令和 4 年度実行計画【第 4 期中期計画を実行する計画】 | |
| <p>①各種 IR データを活用して、各学部・研究科の特色や強みを見える化する。</p> <p>②各学部・研究科の特色や強みを活かした「ここにしかない学び」(独自性のある教育プログラム)の次年度での構築に向けて検討を進める。</p> <p>③各学部の特色や強みを高校生に広報する。</p> | | <p>①各学部・研究科の強みや特色を反映した新たな教育目標、DP・CP・AP を令和 6 年度入学者から適用するため、それらの素案を各学部・研究科で再構築するとともに、教学マネジメント委員会で協議し、その結果を共通のフォーマットに取りまとめる。【⑤-1-①②、⑥-1-①】</p> <p>②教育目標の再構築及びその教育課程への反映にあたっては、次の資料等の総合的な分析を行う。 ・「島根県版高等教育のグランドデザイン」で示され高等教育の将来像、地域社会が学生に求める能力や役割(地域・社会連携ビジョン-目標 1-戦略 1 との関連) ・これまでの課題解決型学修等の教育成果の分析から導かれる育成すべき資質・能力 【①-2-①、⑤-1-①②、⑥-1-①】</p> <p>③各学部・研究科の「ここにしかない学び」を、それぞれのステークホルダーにわかりやすく示すため、「ここがちがう、ここにしかない、島根大学〇〇学部(研究科)の学び(仮題)」を作成し、令和 5 年度の各学生募集(令和 6 年度入学者募集)パンフレットや Web に反映させる。【⑥-1-①】</p> <p>④特に学部の特色や強みを高校生及びその保護者に向けて「見える化」するにあたっては、当該学部での学び(教育上の強みや特色)の成果が、卒業後の進路やキャリア形成にどのようなつながったかについて重点を置き、エビデンス(教学 IR データ)を用いて明示する。【⑥-1-①】</p> | |

自己評価 【目標 1～V】 V.目標を上回る成果が得られている IV.目標を達成している III.目標達成に向けて順調に進んでいる II.目標達成のためには遅れている I.目標達成のためには重大な改善事項がある
【戦略 1～IV】 IV.計画以上の進捗状況にある III.順調に進んでいる II.遅れている I.重大な改善事項がある

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 3 年度実績の検証及び令和 4 年度実行計画の策定について

| 教育ビジョン | | 令和 3 年度実行計画 検証 | |
|--|------|--|-------------|
| 専門分野を基盤とする知、広く世界と未来を俯瞰する視野や感性、そして社会のニーズに応えるスキルとデザイン力をもって、自ら主体的に考え、行動することにより新たな価値を創造し、持続可能で多様性に富んだ知識集約型社会を牽引する人材を育成する。 | | | |
| 目標 1 | 自己評価 | 成果等 | 課題 / 今後の取組等 |
| <p>【地域の総合大学として、その特性を活かした質の高い大学教育を提供する】</p> <p>幅広い学問領域をもつ地域の総合大学として、その知的資源を最大限活用した多様で質の高い教育を保証すると共に、各学部・研究科の「ここにしかない学び」(独自性のある教育プログラム)を提供する。</p> | III | <p>学部大学院一貫プログラムや大学院科目の早期履修制度の活用など内部進学者を増やす取り組みを各学部・研究科にて実施している。</p> <p>他大学からの進学者獲得に向けた取組も実施しており、特に人間社会科学研究科では、島根県の高校生が多く進学する近隣の大学に対する広報活動を行った。</p> | |
| <p>戦略 6</p> <p>学部教育と大学院課程教育の接続を強めることにより、学部学生の大学院への進学意欲を高めると共に、大学院課程を見据えた学士課程教育を展開する。</p> | III | | |
| 令和 3 年度実行計画 | | 令和 4 年度実行計画【第 4 期中期計画を実行する計画】 | |
| <p>①各学部・研究科は学部生と大学院生との交流を促進するなど、大学院進学を意識付ける取り組みを学部 4 年間を通して実施する。</p> <p>②学部学生に対する大学院科目の早期履修制度の活用を促進するなど、学部教育と大学院教育の接続を強化する。</p> <p>③各研究科は、他大学からの本学大学院への進学を促進するための方策を検討・実施する。</p> | | <p>①各学部・研究科は、第 3 期中期目標期間中の大学院進学者について、学部在学中の学修状況やキャリア形成志向の分析などを行った上で、進学率向上についての課題を明らかにする。その上で、第 4 期中期目標期間中の大学院進学率(内部からの進学者数)及び他大学等からの進学者数に関する目標値を設定し、その実現のための具体的方策を立案し実施する。</p> | |

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 3 年度実績の検証及び令和 4 年度実行計画の策定について

| 教育ビジョン | | 令和 3 年度実行計画 検証 | |
|--|------|--|---|
| 専門分野を基盤とする知、広く世界と未来を俯瞰する視野や感性、そして社会のニーズに応えるスキルとデザイン力をもって、自ら主体的に考え、行動することにより新たな価値を創造し、持続可能で多様性に富んだ知識集約型社会を牽引する人材を育成する。 | | | |
| 目標 2 | 自己評価 | 成果等 | 課題 / 今後の取組等 |
| <p>【学びに向かう学生の個性や特性が活かせる多彩で柔軟な教育を提供する】</p> <p>多様な学問的興味関心・文化・価値観、多彩な特技・特性など、さまざまな個性が集う学びの場となるよう、教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進も含め多彩で柔軟な教育システムを提供する。</p> | II | <p>各学部においてへるん入試の検証を行い、出願書類や定員の見直しを行うとともに、特別選抜による入学定員 40%の達成に向けて令和 6 年度入試までの募集単位ごとの定員増加の具体策を取りまとめた。</p> <p>特別選抜による入学定員割合 令和 4 年度入試 32.8%</p> <p>「学びのタネ (好奇心や探究心)」の発芽・成長を促すために、初年次教育の一環で「スタートアップイングリッシュ」(英語の補完授業) や「フレッシュゼミナール」(所属学科等の教員が専門分野にいざなうゼミ) を開講し、また、仲間とともに共学・共創を進め、新たな出会いやプロジェクトが生まれる場へと成長させるプラットフォーム「へるんスプラウトルーム」(仮想空間) を立ち上げた。</p> | <p>令和 3 年度に実施した検討結果を踏まえ、令和 4 年度及び令和 5 年度に実施するへるん入試について 2 年度間を通じた枠組み (定員、募集単位、入試方法等) について検討が求められる。</p> <p>令和 3 年度に立ち上げた「へるんスプラウトルーム」を本格的稼働させ、入学者の「学びのタネ」の発芽・成長を促す。また、令和 3 年度に実行できなかった「学びのタネ」の成長度を計る評価指標について、引き続き検討する必要がある。</p> |
| <p>戦略 1</p> <p>総合型選抜「へるん入試」を中心とした特別選抜の方法を改訂すると共に、当該入試による入学定員を拡充する。また入学者の「学びのタネ」の発芽・成長を促し、開花・結実へと向かうよう支援する柔軟な教育システムを構築する。</p> | II | | |
| 令和 3 年度実行計画 | | 令和 4 年度実行計画【第 4 期中期計画を実行する計画】 | |
| <p>①大学教育センターと各学部は、令和 2 年度実施の「へるん入試」の検証を行い、課題を把握した上で選抜方法を改善する。</p> <p>②大学教育センターと各学部は、特別選抜による入学定員 40%達成に向け、へるん入試を含めた募集単位毎の定員増加の具体案を策定する。</p> <p>③大学教育センターと各学部は、へるん入試の入学者を対象とする地域貢献などを積極的に取り入れた教育システム (特別教育コース) を構築し、実施する。</p> <p>④大学教育センターは、入学者の「学びのタネ」の成長度を測る多面的な評価方法を策定する。</p> | | <p>①令和 3 年度実行計画①②の検討結果を踏まえ、令和 4 年度及び令和 5 年度に実施するへるん入試について 2 年度間を通じた枠組み (定員、募集単位、入試方法等) の改訂計画を、7 月までにとりまとめる (特別入試による入学定員を全入学定員の 40%に拡充する目標を含む)。また令和 5 年度設置予定の新学部の入試について、その実施内容・方法の概要を 6 月中に確定・公表し、志願者数の目標値の設定、ターゲットの絞込みを行った上で、入試広報を展開する。【⑤-2-②】</p> <p>②各学部における全入試の実施状況や入学後の学修状況について教学 IR データを用いた総合的な検証を行い、①や次項③との関連も勘案しつつ、第 4 期中期目標期間後半の入学者受入の全体像について、入試改訂計画を立てる。【⑤-1-②、⑤-2-①】</p> | |

③令和 4 年度の高校進学者（高等学校新学習指導要領 1 期生）を受け入れる令和 7 年度入試（令和 6 年度実施）について、その概要を年内に公表する（2 年前予告）。特に学部学科の枠を超えて学びの翼を広げる「島根大学クロス教育（新教育プラン）」により、地域課題の解決や地域の未来を拓く STEAM 人材を育成する育成・総合型選抜 I（新へるん入試）を新たに策定する。【⑤-1-②、⑤-2-①】

④へるん入学者 1 期生（2 年生）2 期生（1 年生）のみを対象とした「特別教育コース／へるんスプラウトコース（仮称）」を全学及び各学部において開設し、7 割以上の学生の登録を前期中に完了させる。また各学生の「“学びのタネ”の今」についてインタビューを実施し、学びのタネの捉え方、入試における評価方法、入学後の評価方法などについて『へるん入試検証レポート～学びのタネの捉え方、育て方』を作成し、上述③「新へるん入試」の設計に活用する。【⑤-2-①】

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 3 年度実績の検証及び令和 4 年度実行計画の策定について

| 教育ビジョン | | 令和 3 年度実行計画 検証 | |
|---|------|---|-------------|
| 専門分野を基盤とする知、広く世界と未来を俯瞰する視野や感性、そして社会のニーズに応えるスキルとデザイン力をもって、自ら主体的に考え、行動することにより新たな価値を創造し、持続可能で多様性に富んだ知識集約型社会を牽引する人材を育成する。 | | | |
| 目標 2 | 自己評価 | 成果等 | 課題 / 今後の取組等 |
| <p>【学びに向かう学生の個性や特性が活かせる多彩で柔軟な教育を提供する】</p> <p>多様な学問的興味関心・文化・価値観、多彩な特技・特性など、さまざまな個性が集う学びの場となるよう、教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進も含め多彩で柔軟な教育システムを提供する。</p> | II | <p>島根県教育委員会と今後の高大連携事業について県内出身入学者増加への対応も含めて協議を行い、令和 4 年度～令和 6 年度の重点テーマ及びロードマップを策定した。</p> <p>入学者における県内出身者比率 令和 4 年度入試 23.1%</p> <p>地域志向の強い学生を受け入れるため、総合理工学部における令和 4 年度へるん特定地域志向入試 (島根県・鳥取県枠) の募集人員を倍増 (14 名) した。</p> | |
| <p>戦略 2</p> <p>島根県教育委員会と連携し、大学進学を志す高校生を増加させるため高大接続事業を推進すると共に、地元大学での学びに高い意欲をもち、多様な「学びのタネ」を有する島根県出身の入学者を増加させる。</p> | III | | |
| 令和 3 年度実行計画 | | 令和 4 年度実行計画【第 4 期中期計画を実行する計画】 | |
| <p>①大学教育センターが中心となり、松江東高校及び松江農林高校との高大接続事業の進捗の確認・検証を行い、課題を改善する。</p> <p>②大学教育センターが中心となり、上記 2 校の取組の検証を受けて、多様な「学びのタネ」を育むための高大接続事業について島根県教育委員会と協議する。</p> <p>③大学教育センターと地域未来協創本部が中心になり、島根県教育委員会と本学の県内出身者入学率増加のロードマップを策定・共有し、県内出身者の入学増加策について協議し、実行する。</p> <p>④地域志向の強い学生を受け入れる入試の募集人員を増員するなど、県内出身入学者増加のための具体策を検討し、実行する。</p> | | <p>①令和 3 年度に県教委との連絡調整会議において共有された 5 つの重要テーマのうち、「高大連携による育成型入試の展開・充実」について次の a.b に取り組む。</p> <p>a.令和 4 年度より施行される高等学校新学習指導要領において「総合的な探求の時間」や「情報 I」が必修化されたことを踏まえ、その第 1 期生を大学に受け入れるにあたっての高大連携・接続のあり方について島根県教育委員会と協議し、当該第 1 期生が高校 2 年生となる令和 5 年度に開始する接続教育プラン (仮称) を策定する。</p> <p>b.「特別教育コース／へるんプラウトコース (仮称／教育ビジョン-目標 2-戦略 1-④参照)」のうち島根県出身者について「“学びのタネ”の今」のインタビュー結果について島根県教育委員会と協議するとともに、学びのタネの捉え方、評価方法などの分析結果である『へるん入試検証レポート～学びのタネの捉え方、育て方』についても意見交換し、それらの結果を「新へるん入試」の検討 (特に高校生や高校教員に明確に伝わる「学びのタネ」の再定義) に活用できるよう取りまとめる。</p> <p>②地元大学での学びに高い意欲をもち、多様な「学びのタネ」を有する島根県出身の入学者を引き続き増加させるため、へるん入試による県内からの入学者数の目標を 80 人とする (令和 3 年度 60 人、令和 4 年度 67 人)。</p> | |

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 3 年度実績の検証及び令和 4 年度実行計画の策定について

| 教育ビジョン | | 令和 3 年度実行計画 検証 | |
|--|------------|--|---|
| 目標 2 | | 成果等 | 課題 / 今後の取組等 |
| <p>【学びに向かう学生の個性や特性が活かせる多彩で柔軟な教育を提供する】 多様な学問的興味関心・文化・価値観、多彩な特技・特性など、さまざまな個性が集う学びの場となるよう、教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進も含め多彩で柔軟な教育システムを提供する。</p> | 自己評価 II | <p>全学共通教育改革の一環としてクロス教育、副専攻プログラム、ダブルメジャー、メジャー・マイナープログラムを検討し、それぞれ見直し案やプログラム案を作成した。</p> | <p>令和 6 年度入学者から実施する予定である新教育プラン「島大クロス教育 (仮称)」の中で、令和 3 年度に作成した各プログラム案の検討を続け、幅広い選択肢を持った柔軟な教育システムを構築する。</p> |
| <p>【戦略 3】 自己の特質を活かそうとする学生の意欲的な学びを支援するため、主専攻 (分野)・副専攻 (分野) によるクロス教育、学部の壁を超えた副専攻プログラム、オンライン授業等の活用によるダブルメジャー、メジャー・マイナープログラムなど、幅広い選択肢を持った柔軟な教育システムを構築する。</p> | 自己評価 II | | |
| 令和 3 年度実行計画 | | 令和 4 年度実行計画【第 4 期中期計画を実行する計画】 | |
| <p>① 専門×専門、専門×各種リテラシーなど、クロス教育の観点から各学部・研究科のカリキュラムを見直し、クロス教育プログラムの具体案を策定する。</p> <p>② 大学教育センターと各学部が共同して、学部の壁を超えた副専攻プログラム構築の具体的構想を検討する。</p> <p>③ 大学教育センター及び各学部・研究科において、ダブルメジャー、メジャー・マイナープログラムの構築に向けた検討を行う。</p> | | <p>① 令和 6 年度入学者から新教育プラン「島大クロス教育 (仮称)」を実施するため、「クロス教育 (知の越境力育成)」の定義をはじめ、基本的な履修の枠組み、各学部の専門教育における展開や履修方法等について、次の a~c のパターンを踏まえて実施計画を策定する。【④-2-①②】</p> <p>a. 学部専門教育をベースとした主専攻×副専攻 各学部において育成しようとするある領域 (学科等) の「専門性」を他の教育プログラム (当該学部内の他学科等の専門性) とクロスさせることによって強みを形成する取組 (達成水準: 令和 5 年度各学部 1 件、令和 8 年度各学部 3 件以上)</p> <p>b. 学部を超えた副専攻プログラムとのクロス ある領域 (学科等) の「専門性」を当該学部以外の教育プログラム (他学部や全学共通教育の副専攻プログラム等) とクロスさせることによって強みを形成する取組 (達成水準: 令和 5 年度 3 件、令和 8 年度 10 件)</p> <p>c. 他学部や他大学の授業 (オンラインを含む) を活用してより広範で柔軟な学際的履修を可能とする取組で、ダブルメジャーやメジャー・マイナーによる強みを形成しようとする取組 (令和 8 年度 3 件)</p> <p>②①の実施計画を策定するため、中期目標・計画⑤-1、教育ビジョン-目標 1-戦略 4 及び 5 を踏まえるとともに、教学マネジメント委員会において全学としての方向性を確認・調整しつつ、学部における教育課程 (要卒単位の構成) や専門教育科目数の厳選について協議し、素案を作成する。【④-2-①②、⑤-1-①②】</p> | |

自己評価 【目標 1~V】 V.目標を上回る成果が得られている IV.目標を達成している III.目標達成に向けて順調に進んでいる II.目標達成のためには遅れている I.目標達成のためには重大な改善事項がある
【戦略 1~IV】 IV.計画以上の進捗状況にある III.順調に進んでいる II.遅れている I.重大な改善事項がある

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 3 年度実績の検証及び令和 4 年度実行計画の策定について

| 教育ビジョン | | 令和 3 年度実行計画 検証 | |
|---|------|---|---|
| 専門分野を基盤とする知、広く世界と未来を俯瞰する視野や感性、そして社会のニーズに応えるスキルとデザイン力をもって、自ら主体的に考え、行動することにより新たな価値を創造し、持続可能で多様性に富んだ知識集約型社会を牽引する人材を育成する。 | | | |
| 目標 2 | 自己評価 | 成果等 | 課題 / 今後の取組等 |
| <p>【学びに向かう学生の個性や特性が活かせる多彩で柔軟な教育を提供する】</p> <p>多様な学問的興味関心・文化・価値観、多彩な特技・特性など、さまざまな個性が集う学びの場となるよう、教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進も含め多彩で柔軟な教育システムを提供する。</p> | II | 令和 2 年度に実施したオンライン授業に関するアンケート及び授業評価アンケートを検証した結果、これまでと同程度の学修満足度が確認できたほか、意欲や理解度、学修時間の増加などの点で従来以上に肯定的評価を得ることができ、コロナ禍においても教育の質を維持・向上させることができた。 | 令和 4 年度に設置する予定であった「教育高度化推進室」を含め、教育 DX 高度化の進め方について、早急に検討する必要がある。 |
| <p>戦略 4</p> <p>学びの多様性を高めるため教育 DX を推進し、国内外の大学・高等専門学校と連携して、リモート教育を活用した単位互換等の連携プログラムを開発・実施する。</p> | II | オンライン授業に係る FD を 4 回実施するとともに、授業のハイブリッド化を想定した遠隔授業のガイドライン(令和 4 年度版)を策定した。 | 令和 3 年度のオンライン教育等の学生満足度について分析を行い、満足度向上に向けた取組を強化する。 |
| 令和 3 年度実行計画 | | 令和 4 年度実行計画【第 4 期中期計画を実行する計画】 | |
| <p>①大学教育センターが中心となり、令和 2 年度に実施したオンライン授業を検証し、教育 DX をさらに推進する。</p> <p>②教育 DX をより強力に推進するための体制として「教育高度化推進室」を令和 4 年度に設置するための準備を整える。</p> <p>③教育 DX の観点から授業のハイブリッド化を推進すると共に、オンラインによる授業等の FD 研修会を実施するなど授業の質的向上を実現し、学生の満足度を向上させる。</p> <p>④大学教育センター等の全学センターや学部・研究科が共同で、国内外の大学や高専 5 校以上とリモート教育の活用を含めた単位互換等の連携プログラムの構築について協議する。</p> | | <p>①令和 2 年度及び令和 3 年度に実施された授業（遠隔授業を含む）において、授業方法に高度な DX を取り入れ教育成果を上げた授業や学生からの授業評価の高かった授業について、その要因を分析し、「高度な教育 DX による授業改善の手引きと事例集（試作版）」を作成するとともに、オンライン授業の高度化に関する FD を年度内に 2 回実施する。【⑥-2-②】</p> <p>②国内外の大学や高専との連携教育プログラム（単位互換制度を活用するものを中心とする）を構築する。また大学教育センターは、各学部・研究科や全学共通教育における当該取組みについて、その内容、実施方法、実施状況等について把握するとともに、教育改善小委員会において情報共有・協議し、プログラムの質保証や改善に取組む。【⑫-1 海外大学との間の遠隔授業】</p> <p>③教育 DX の推進をはじめ、学修者中心の高度な大学教育を企画・提案、推進するため「教育高度化推進センター」の新設計画を取りまとめる。（経営戦略ビジョン-目標 3-戦略 2 関連）</p> | |

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 3 年度実績の検証及び令和 4 年度実行計画の策定について

| 教育ビジョン | | 令和 3 年度実行計画 検証 | |
|--|------|---|---|
| 専門分野を基盤とする知、広く世界と未来を俯瞰する視野や感性、そして社会のニーズに応えるスキルとデザイン力をもって、自ら主体的に考え、行動することにより新たな価値を創造し、持続可能で多様性に富んだ知識集約型社会を牽引する人材を育成する。 | | | |
| 目標 2 | 自己評価 | 成果等 | 課題 / 今後の取組等 |
| <p>【学びに向かう学生の個性や特性が活かせる多彩で柔軟な教育を提供する】</p> <p>多様な学問的興味関心・文化・価値観、多彩な特技・特性など、さまざまな個性が集う学びの場となるよう、教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進も含め多彩で柔軟な教育システムを提供する。</p> | II | <p>地域のステークホルダーにも質の高い大学教育を提供するため、バーチャル・キャンパス「もう一つの島根大学」の構想案を策定した。</p> <p>「もう一つの島根大学」の構築に向けた試行として、オンライン型公開講座(14 講座)コンテンツを提供し、153 名が受講した。</p> | <p>令和 3 年度に実施できなかった学内教員による名物講義の配信も含め、「もう一つの島根大学」の構築に向けて検討を続ける必要がある。</p> |
| <p>戦略 5</p> <p>バーチャル・キャンパスとして「もう一つの島根大学」を立ち上げ、定評や特色のある「名物講義」、英語による講座、リカレント教育に活用できる講座等の各種講座を制作してホームページ上で公開し、学生だけではなく地域のステークホルダーにも質の高い大学教育を提供する。</p> | II | | |
| 令和 3 年度実行計画 | | 令和 4 年度実行計画【第 4 期中期計画を実行する計画】 | |
| <p>①大学教育センターが中心となり、学内教員による名物講義を発掘し、順次、録画・配信する。</p> <p>②バーチャル・キャンパス「もう一つの島根大学」構想を大学教育センターが中心にまとめ、具体的な実施案を策定する。</p> <p>③オンライン型公開講座に活用できる教材を開発し、ホームページ上に公開する。</p> | | <p>①令和 3 年度実行計画②の実績を基盤として、オンラインの学修プラットフォーム「もう一つの島根大学」によるバーチャル・キャンパス創出に取り組むため、a. 高校生向けの教材動画サイト、b. 大学生向けの教材動画サイト、c. 社会人向けのリカレント動画サイトの 3 つを設計し、各サイトに試供動画をアップして評価をフィードバックしてもらおう。併せて、視聴者がマイページ (自分の学修経歴の蓄積) を持ち継続学修を促進する仕組みや、学修者同士が交流できるサイトの構築について検討し、バーチャル・キャンパスの全体像 (総合プラン) を策定する。</p> <p>② (再掲 教育ビジョン-目標 2-戦略 4-実行計画③) 教育 DX の推進をはじめ、学修者中心の高度な大学教育を企画・提案、推進するため「教育高度化推進センター」の新設計画を取りまとめる (経営戦略ビジョン-目標 3-戦略 2 関連)。</p> | |

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 3 年度実績の検証及び令和 4 年度実行計画の策定について

| 教育ビジョン | | 令和 3 年度実行計画 検証 | |
|---|--|---|---|
| 目標 3 | | 成果等 | 課題 / 今後の取組等 |
| <p>専門分野を基盤とする知、広く世界と未来を俯瞰する視野や感性、そして社会のニーズに応えるスキルとデザイン力をもって、自ら主体的に考え、行動することにより新たな価値を創造し、持続可能で多様性に富んだ知識集約型社会を牽引する人材を育成する。</p> | | | |
| <p>目標 3 【未来社会を先導する知のプロフェッショナルを育成する体系的な大学院教育を提供する】 高度な教育・研究を通じて、Society 5.0 を実現し、知識集約型社会を先導する研究者、高度専門職業人や高度で知的な素養のある人材を育成するため、3 つのポリシーに基づく高度で体系的な学びを提供する。</p> | | <p>各研究科において、社会実装の観点を取り入れた 3 ポリシーの改定案の検討が進められた。</p> | <p>各研究科において検討が進められているものの、本戦略についての共通理解が欠けており、実質的な進捗はみられなかった。大学院の教育課程について、組織的な改善に取り組む体制を構築することが重要である。</p> |
| <p>戦略 1 これからの時代の要請に応えられる高度な学術的専門性を身につけ、国内外の産業界の需要に応えられる高度専門職業人を育成するため、大学院のカリキュラムを学位プログラムの視点から点検・再構築する。</p> | | | |
| 令和 3 年度実行計画 | | 令和 4 年度実行計画【第 4 期中期計画を実行する計画】 | |
| <p>①全ての研究科において、社会実装の観点から 3 ポリシーを点検、改善する。</p> <p>②改善された 3 ポリシーに基づき、研究科のカリキュラムを点検・再構築する。</p> | | <p>①「島根大学教学マネジメント方針」に基づき、全研究科に教学マネジメント体制を構築する。また令和 4 年度に受審する認証評価への対応を通じて、各研究科における教育課程上の課題を把握するとともに、教学マネジメント委員会においてその改善過程を検証する。【⑦-1-②】</p> <p>②高度な専門的知識・能力を持つ高度専門職業人や知識集約型社会を多様に支える高度で知的な素養のある人材を養成するため、各研究科における 3 つのポリシー（DP・CP・AP）の再構築を行うため、教学マネジメント委員会において全学的な方向性を確認する。【⑦-1-①】</p> | |

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 3 年度実績の検証及び令和 4 年度実行計画の策定について

| 教育ビジョン | | 令和 3 年度実行計画 検証 | |
|--|--|--|--|
| 目標 3 | | 成果等 | 課題 / 今後の取組等 |
| <p>【未来社会を先導する知のプロフェッショナルを育成する体系的な大学院教育を提供する】</p> <p>高度な教育・研究を通じて、Society 5.0 を実現し、知識集約型社会を先導する研究者、高度専門職業人や高度で知的な素養のある人材を育成するため、3 つのポリシーに基づく高度で体系的な学びを提供する。</p> | | <p>人間社会科学研究科においては、既に単位認定を伴うインターンシップを実施しているが、さらに産業界との共同授業、アクティブラーニングを取り入れた授業について点検を行った。</p> <p>自然科学研究科も同様にインターンシップ授業として「特別実習」を実施している。この他にも実践教育プロジェクト I・II・III（全コースに研究科共通科目として配置）、「研究力とキャリアデザイン」、「研究と倫理」、「学際プレゼンテーション入門」（いずれも全コース対象）を実施した。</p> | <p>いずれの研究科においても新たな教育プログラムについて令和 4 年度からの実施計画の策定、カリキュラムの改正には至っていない。</p> <p>戦略 2 の趣旨を満たす教育プログラム（授業科目等）の実態について、カリキュラムツリー上での位置付け、全授業に占める割合、履修人数等を検証し、「地域社会の発展に資する実践的能力の育成」という教育目標につながるよう、エビデンスベースの検証が必要である。</p> |
| <p>【地域社会の発展に資する実践的能力を備えた高度専門職業人を育成し、学生のキャリアパスの多様化を図るため、産業界との共同授業、実務家教員による授業、PBL 型の授業、多様なインターンシップ体験などを充実させ、大学院での学びの社会実装を一層推進する。】</p> | | | |
| 令和 3 年度実行計画 | | 令和 4 年度実行計画【第 4 期中期計画を実行する計画】 | |
| <p>①研究科ごとに（特に、人間社会科学研究科及び自然科学研究科）、産業界との共同授業、実務家教員による授業、PBL 型の授業、多様なインターンシッププログラムなどの現状を検証した上で、令和 4 年度からの実施計画を策定しカリキュラムを改正する。</p> | | <p>①大学院教育における社会実装を推進するため、人間社会科学研究科（臨床心理学専攻を除く）及び自然科学研究科において現在行われている「地域との協働授業」「産業界との協働授業」、「PBL 型の授業」、「大学院生を対象とした多様なインターンシップ」について、令和 3 年度及び令和 4 年度の履修者数を調査する。このうち令和 3 年度実績値（第 3 期中期目標期間末）を基準値として、第 4 期中期目標期間中にその 1.5 倍以上となることを目標とした履修促進計画（ロードマップ）を作成する。【⑦-2-①】</p> <p>②各研究科・専攻において、修士論文（専門職学位においては研究成果報告書）テーマにかかる研究成果発表会等を地域・産業界等の参画を得て開催するよう、それぞれにおいて令和 4 年度中に実施要領を定めた上、令和 5 年度より実施し、地域・産業界等の参画状況や出された意見等について公表できるようにする。【⑦-2-②】</p> | |

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 3 年度実績の検証及び令和 4 年度実行計画の策定について

| 教育ビジョン | | 令和 3 年度実行計画 検証 | |
|---|--|---|---|
| 目標 3 | | 成果等 | 課題 / 今後の取組等 |
| <p>専門分野を基盤とする知、広く世界と未来を俯瞰する視野や感性、そして社会のニーズに応えるスキルとデザイン力をもって、自ら主体的に考え、行動することにより新たな価値を創造し、持続可能で多様性に富んだ知識集約型社会を牽引する人材を育成する。</p> | | | |
| <p>【未来社会を先導する知のプロフェッショナルを育成する体系的な大学院教育を提供する】 高度な教育・研究を通じて、Society 5.0 を実現し、知識集約型社会を先導する研究者、高度専門職業人や高度で知的な素養のある人材を育成するため、3 つのポリシーに基づく高度で体系的な学びを提供する。</p> | | II | <p>自然科学研究科で実施していた海外研修（タイ：インターンシップ）と連携し、社会学系でも受講できるよう検討を行ったが、新型コロナウイルスの影響で現地との具体的なプログラムについての協議には至らなかった。</p> <p>ブラジル・サンパウロ大学とダブルディグリー制度の将来的な導入を見据えた提携について、協議を開始した。</p> <p>Web 会議等により行われた国際会議等において研究発表を行った大学院生の割合は全大学院生の 4%（28 名）であった。</p> |
| <p>国際性を涵養するため、海外留学・研修、国際会議における研究発表やダブルディグリー等の多様なプログラムを提供する。</p> | | II | |
| 令和 3 年度実行計画 | | 令和 4 年度実行計画【第 4 期中期計画を実行する計画】 | |
| <p>①国際センターと研究科が共同で大学院生の海外留学・研修プログラムの検証・開発を行い、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染状況を確認しながら実施する。</p> <p>②各研究科は、ウェブ会議も含め、国際会議における大学院生の発表機会を開拓・確保し、会議への参加、研究発表を促進する。</p> | | <p>①新型コロナウイルスの感染状況を鑑みつつ、大学院生の海外留学・研修または国際会議における研究発表をオンライン参加を含めて全大学院生の 8%（令和 3 年度実績 4%の倍増）とする。【⑫-1-①】</p> <p>②新型コロナウイルスの感染状況を鑑みつつ、ダブルディグリープログラムの履修者数を 3 名とし、延べ 6 名（令和 3 年度実績 3 名）とする。【⑫-1-②】</p> | |

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 3 年度実績の検証及び令和 4 年度実行計画の策定について

| 教育ビジョン | | 令和 3 年度実行計画 検証 | |
|--|--|---|--|
| 目標 3 | | 成果等 | 課題 / 今後の取組等 |
| <p>【未来社会を先導する知のプロフェッショナルを育成する体系的な大学院教育を提供する】</p> <p>高度な教育・研究を通じて、Society 5.0 を実現し、知識集約型社会を先導する研究者、高度専門職業人や高度で知的な素養のある人材を育成するため、3 つのポリシーに基づく高度で体系的な学びを提供する。</p> | | <p>研究科における社会人リカレントのための履修証明プログラムとして3つのプログラムを実施し、合計 36 名が履修した（目標値 毎年度 30 名上）。</p> <p>全学的視野から履修証明プログラムを再構築して、「もう一つの島根大学」の受講者に学びの次のステップとして提供する案を策定した。</p> | <p>令和 3 年度に達成できなかった、「県内企業、島根県等から県内の社会人におけるリカレント教育のニーズを把握と、各研究科と共同で全学的視野から履修証明プログラムを再構築」の実現に向けて、全学的な教育改革の中で、どのように実施していくか引き続き検討が求められる。</p> |
| <p>戦略 4</p> <p>オンラインによる遠隔授業等も活用し、実践的な履修証明プログラムによる高度専門職業人材に対応するリカレント教育を展開する。</p> | | | |
| 令和 3 年度実行計画 | | 令和 4 年度実行計画【第 4 期中期計画を実行する計画】 | |
| <p>①各研究科において、現行の社会人リカレントのための履修証明プログラムを社会からのニーズや実践性の観点から検証し、見直す。</p> <p>②大学教育センターにおいて、県内企業、島根県等から県内の社会人におけるリカレント教育のニーズを把握し、各研究科と共同で全学的視野から履修証明プログラムを再構築する。</p> | | <p>①島根県の企業等における大学院教育プログラムへのリカレント教育のニーズについて、職域、履修形態、方法等について各研究科が持っている調査等のデータを大学教育センターで取りまとめ、全学的にどのようなシステムを構築すれば、履修者増加・履修促進に向かうことができるのかについて、教学マネジメント委員会において分析・整理を行う。</p> <p>②本学の強みを活かし、県内外から DX 等を活用して履修者を集めることのできるプログラムを構築するため、オープンバッジなど、近年、リカレントやリスキリングにおいて注目されている学びやスキルの蓄積プログラムについて調査研究し、企画書を取りまとめる。</p> | |

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 3 年度実績の検証及び令和 4 年度実行計画の策定について

| 教育ビジョン | | 令和 3 年度実行計画 検証 | |
|---|------|---|--|
| 専門分野を基盤とする知、広く世界と未来を俯瞰する視野や感性、そして社会のニーズに応えるスキルとデザイン力をもって、自ら主体的に考え、行動することにより新たな価値を創造し、持続可能で多様性に富んだ知識集約型社会を牽引する人材を育成する。 | | | |
| 目標 4 | 自己評価 | 成果等 | 課題 / 今後の取組等 |
| <p>【国際感覚とコミュニケーションスキルを育成するグローバル教育を提供する】</p> <p>コロナ禍を経た新たな国際交流の在り方を踏まえ、教育 DX の推進と共に学内のグローバル化を促し、国際色豊かなキャンパスを構築する。</p> | II | <p>外国語教育の強化に向けて「外国語教育グランドデザイン（案）」を策定した。また、このグランドデザイン案を踏まえた各部局・研究科のカリキュラム改正を令和 5 年度から実施することとした。</p> <p>英語による授業科目数 学部 112 科目、大学院 152 科目（基準値 令和元年度学部 57 科目、大学院 173 科目）</p> <p>外国人教員数 32 名（目標値 令和 3 年度 36 名）</p> | <p>令和 3 年度に策定した「外国語教育グランドデザイン（案）」の協議を進めるとともに、専門教育の改革（英語による授業の増加や専門教育を通じた英語運用能力の向上など）につなげていく取組を計画する必要がある。</p> <p>学内教育環境のグローバル化を推進し、英語による日常的コミュニケーション環境を整備するための具体的な取り組みが求められる。</p> |
| 戦略 1 | 自己評価 | 令和 3 年度実行計画 | 令和 4 年度実行計画【第 4 期中期計画を実行する計画】 |
| <p>共通教育及び専門教育を通じて外国語教育を強化すると共に、英語による授業科目の増加、英語による日常的コミュニケーション環境の整備、外国人教員の増加など、学内教育環境のグローバル化を推進する。</p> | II | <p>①外国語教育センターと各学部・研究科の教員から構成されるWGを立ち上げ、共通教育及び専門教育を通じた外国語教育の強化に向けて、外国語教育グランドデザインを策定する。</p> <p>②各学部・研究科において、グローバル化推進の観点から、英語による授業科目増加を含むカリキュラム改正案を策定し、令和 4 年度から実施する。</p> <p>③現在配置されていない学科を含め外国人教員を積極的に配置することとし、令和 3 年度末までに 36 名の外国人教員を配置する。</p> | <p>①外国語教育グランドデザイン（素案）を教学会議、教学マネジメント委員会（全学共通教育小委員会）に諮って意見調整するとともに、令和 6 年度よりスタートする新教育システム（島大クロス教育）において、全学共通教育・専門教育を通じた外国語能力向上にどう位置づけるかについて、より踏み込んだ実施案を策定する（令和 5 年度中制度設計完成）。【⑥-2-①】</p> <p>②各部局・研究科に、「グローバル・コモンズ」等のスペースを設けて、部局間・研究科間を超えた日常的な教職員と留学生の交流を図る。</p> <p>③定期的な交流企画を学内で公開して開催するなど、部局間・研究科間を超えた交流を強化する。</p> <p>④英語による授業科目を段階的に増加させるため、「授業の英語化推進基準及びロードマップ（仮称）」を国際センターと外国語教育センターで策定する。</p> <p>⑤令和 3 年度末 32 名を踏まえ、引き続き令和 4 年度末までに 36 名の外国人教員を配置する。</p> |

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 3 年度実績の検証及び令和 4 年度実行計画の策定について

| 教育ビジョン | | 令和 3 年度実行計画 検証 | |
|---|------|---|-------------|
| 専門分野を基盤とする知、広く世界と未来を俯瞰する視野や感性、そして社会のニーズに応えるスキルとデザイン力をもって、自ら主体的に考え、行動することにより新たな価値を創造し、持続可能で多様性に富んだ知識集約型社会を牽引する人材を育成する。 | | | |
| 目標 4 | 自己評価 | 成果等 | 課題 / 今後の取組等 |
| <p>【国際感覚とコミュニケーションスキルを育成するグローバル教育を提供する】</p> <p>コロナ禍を経た新たな国際交流の在り方を踏まえ、教育 DX の推進と共に学内のグローバル化を促し、国際色豊かなキャンパスを構築する。</p> | II | <p>教育 DX を推進し、オックスフォード大学教員によるオンライン授業（3 科目、延べ 66 名参加）や、アメリカ・中国・オーストラリアの協定大学とのオンラインカフェによる学生交流（月 1 回程度）を実施した。インド・スリランカ・中国の大学との合同講義の調整を行い開催した授業を含め、計 4 回の COIL 型授業を実施するとともに、「COIL 型授業の ABC」と題した FD を開催した。</p> <p>オンラインも活用したグローバル月間の参加人数は全体で昨年より 2 倍弱（1,062 人）、留学生は 3 倍強（107 人）となり、海外留学・研修への意識を高めた。</p> <p>新型コロナウイルスの影響により。海外派遣学生数は 4 名に留まった。</p> | |
| <p>戦略 2</p> <p>教育 DX の推進による海外大学との遠隔授業の受講、オンラインカフェや COIL 等による協定校とのバーチャルな学生交流等と併せ、留学生と日本人学生の直接的な交流機会の拡充にも努め、海外留学・研修の意識を高め、海外に派遣する学生を増加させる。</p> | III | | |
| 令和 3 年度実行計画 | | 令和 4 年度実行計画【第 4 期中期計画を実行する計画】 | |
| <p>①オンライン授業も活用し、オックスフォード大学教員による授業を継続、拡充する。</p> <p>②国際センターは、オンラインカフェを本学の日本人学生と協定校の学生との交流の場として定期的（月 1 回程度）に開催する。</p> <p>③国際センター等で試験的に COIL のモデル授業を開発し、公開授業及び FD を開催する。</p> <p>④国際センターは、新入生などの低学年を主な対象として、オンライン留学を実施し、アフターコロナにおける海外留学に向けてモチベーションを向上させる。</p> <p>⑤国際センターは、留学ウィーク、グローバル月間を引き続き開催し、感染対策を行った上で外国人留学生と日本人学生の直接的な交流機会を拡充する。</p> | | <p>①オックスフォード大学教員による遠隔授業を新たに 2 科目開講する。</p> <p>②外国語教育センターでは、海外へ派遣する学生を増加させるため、新規授業「グローバル・キャリア」を開設する他、「グローバルアクティビティー B（海外研修）」及び北京大学教員と連携し、5 科目のオンライン授業を実施し、各科目 10 名以上の受講者を確保する。【(12-1-①)】</p> <p>③国際センターでは、海外へ派遣する学生を増加させるため、オンラインカフェ（月 1 回）、COIL 授業（4 大学以上）、語学研修（3 大学以上）、課題解決型研修（20 名以上）を実施する。【(12-1-①)】</p> <p>④国際センターでは、外国語教育センター、学部と連携して留学ウィーク及びグローバル月間を開催し、令和 3 年度実績（446 人うち日本人学生 327 人、1,062 人うち日本人学生 588 人）のそれぞれ 20%以上増の学生を参加させ、外国人留学生と日本人学生の直接的な交流機会を拡充する。【(12-1-①)】</p> <p>⑤国際センターは、JASSO 主催や企業等主催の留学生向け大学説明会に積極的に参加（年間 5 回以上）し、学生数に占める外国人留学生の受入割合を昨年度より学部学生 0.5%増、大学院生 2%増とする。【(12-1-②)】</p> | |

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 3 年度実績の検証及び令和 4 年度実行計画の策定について

| 教育ビジョン | | 令和 3 年度実行計画 検証 | |
|--|------|--|---|
| 専門分野を基盤とする知、広く世界と未来を俯瞰する視野や感性、そして社会のニーズに応えるスキルとデザイン力をもって、自ら主体的に考え、行動することにより新たな価値を創造し、持続可能で多様性に富んだ知識集約型社会を牽引する人材を育成する。 | | | |
| 目標 4 | 自己評価 | 成果等 | 課題 / 今後の取組等 |
| <p>【国際感覚とコミュニケーションスキルを育成するグローバル教育を提供する】</p> <p>コロナ禍を経た新たな国際交流の在り方を踏まえ、教育 DX の推進と共に学内のグローバル化を促し、国際色豊かなキャンパスを構築する。</p> | II | <p>自然科学研究科においてインドネシア及びインド出身の教員を採用することで、両国の協定校とのダブルディグリープログラム設置の核となる人脈が強化し、インドの協定校（コチ理工大、ラジャギリ工業技術大）とダブルディグリープログラムの協議を開始した。</p> <p>ダブルディグリーやジョイントディグリープログラムの設置に向けた新たな相手校として4校（中国3校：ミンナン師範大、南京林業大、寧夏大、ブラジル1項：サンパウロ大）を選定し、協議を開始した。</p> | <p>ダブルディグリーやジョイントディグリープログラムの設置について、遠隔授業の活用も取り入れる形で、新規の相手校の開拓を進める。</p> |
| <p>戦略 3</p> <p>海外の協定大との遠隔授業を活用し、学士課程、大学院課程におけるダブルディグリープログラム、または、ジョイントディグリープログラムを新たに設置する。</p> | II | | |
| 令和 3 年度実行計画 | | 令和 4 年度実行計画【第 4 期中期計画を実行する計画】 | |
| <p>①国際センター、大学教育センターと自然科学研究科が共同で、ダブルディグリープログラム又はジョイントディグリープログラムについて、インドネシア及びインドの協定校と令和 4 年度の設置に向けて協議を行う。</p> <p>②国際センター、大学教育センターと各学部・研究科が共同で、ダブルディグリーやジョイントディグリープログラムの設置について、新たに 3 校以上の相手校を選定し、協議を開始する。</p> | | <p>①ブラジル・サンパウロ大と法文学部との教員交流を進め、ダブルディグリープログラム締結に向けた具体的な協議を進める。【⑫-1-③】</p> <p>②ミンナン師範大との 3+1 プログラムを締結し、募集を開始する。寧夏大との 3+1 プログラムについても締結に向けた協議を進める。【⑫-1-③】</p> <p>③インド、インドネシアの協定校、教員を採用した大などとの間で、ダブルディグリープログラムへ向けて令和 3 年度に開始した検討を進めるとともに、近年留学生の派遣受入の交流実績の多い協定校であるタイのタマサート大とのダブルディグリープログラムについて新たに検討を始める。【⑫-1-③】</p> | |